

# 半世紀前からの 贈り物 番外編



〈いつつぼし〉

昭和28年に発刊された蒲南小2年生の文集。当時の様子が子ども視点でいきいきと描かれています。

平成17年10月15日号から15回に渡って広報がまごおりに連載しました「半世紀前からの贈り物 ～今、蘇る『文集』～」。このエッセイの著者で蒲郡市民間大使の内田雅敏氏と、蒲南小・蒲中の同級生3人が集まって、エッセイの基になった「いつつぼし」を囲みながら、当時と今の蒲郡について語り合いました。

## いつつぼしを読んで

**内田さん** 最近、人やモノとの出会いには時機というものがあふることが多くあります。「いつつぼし」は、2年前に私に送られてきました。が、還暦という節目の年の2年前に出会えたことは、本当に幸せなことだったと思います。このエッセイは、あの時代を愛しむというか、貧しかったけれども良い時代であったという思いを共有できたという思いを込めて作りました。



内田 雅敏さん  
蒲南小・蒲中出身 東京都在住 弁護士

**牧さん** 内田さんのエッセイを読むまでは、いつつぼしという文集を作ったことすら忘れていましたよ。忘れかけていた当時のことを思い出して、そ

ういえば、昔はよく西田川にハゼ釣りに行ったり、海にイソギンチャクを取りに行ったりしたなあ、と、幼いころの時間を取り戻した思いです。

**中尾さん** 私は38年間、高校で教員をしていましたが、生徒にはよく昔のことをしゃべっていました。50年のときを超えて、このような記録が残っていることはすごいことですね。

**内田** この文集のことを10歳くらい上の人に話してもとても懐かしがってくれました。今は、10年もたつたら時代が変わってしましますが、昔は時間がゆっくり流れていたんですね。これを「懐かしい」という思いだけで終わらせてしまうのはもったいない。

**牧** この文集から、今では失ってしまったものを学ぶことができるのではないのでしょうか。

## 当時の子どもたち

**内田** 今、蒲郡のまちには昼間でもあまり人が歩いていません。主な移動手段が車になってしまったからでしょうか。

**伊藤さん** そうですね、今は小平

市(東京都)に住んでいます、蒲郡に帰ってくると少しさみしく思います。



伊藤 恵子さん  
蒲南小・蒲中出身 東京都在住

**牧** 昔は、まちのあちらこちらで子どもが遊んでいる姿が見られましたからね。

**中尾** 私たちのころは、遊びといえば馬とび、カン蹴り、ゴム段遊びなどでしたからね。

**内田** 文集を読んでみて感じますが、昔はどの親も子どもたちだけで海に行くことを容認していますね。確かに、海にも川にもどこにも大人がいて、その人たちが誰の子でも面倒を見てくれた覚えがあります。

**中尾** 今では、生活様式だけでなく、人間関係自体も「都会化」してしまっているような感じがします。